



編 茶
 訪 海 狐 怪 談
 一 冊 作
 其 中 一 冊
 之 冊

文化四

13
 2946
 166



12
2948

13
2948
166

新編海防物語序



このころは、
世に復讐の習い満ちしとあるもの
了程の正論を人々守るの持たる者
中を船運を付の仕立と人々解しし画
子と云と世にみよる子無と結ぶの撰者
其書も精なりと云ふ事、予も此書を
讀みしに、
海防の術の故に、
あつと編みしもの、
と云ふ事、

丁卯春

十返舎一九誌

左侍が... 田川... 山... 田川... 山... 田川... 山...



左侍が... 田川... 山... 田川... 山...

志ん
志ん
志ん
志ん
志ん



大仲ら流さの
 のうちあんこ
 ろうと死や
 もゆきや
 山と夫らか
 きりのおとる
 ようちら
 ようとそれ
 ようちら
 夫らとらそ
 らんおほり
 夫らとらそ
 のをほろ
 ちとちかひ
 こがれの
 ろれりら
 夫らゆら
 夫らせき
 ありて
 わらひら
 ありて
 ちらと
 ちらと



大仲ら流さの
 のうちあんこ
 ろうと死や
 もゆきや
 山と夫らか
 きりのおとる
 ようちら
 ようとそれ
 ようちら
 夫らとらそ
 らんおほり
 夫らとらそ
 のをほろ
 ちとちかひ
 こがれの
 ろれりら
 夫らゆら
 夫らせき
 ありて
 わらひら
 ありて
 ちらと
 ちらと



夫のりたるるかりが
 中まきまのび入
 さればよくくか
 かりのつづつべきこ
 ゆるりつとらやまの
 たりどんやてゆま
 をそもぎしりりか
 けつちひはむら
 ねもやまきやる
 ぞとててんも
 ありさるものる
 ゆんちうあまの
 ぞんがうくれそ
 ありうちゆも
 あけらちく
 むれれむやく
 中まきまをさち
 かりのりかまの
 ちかぐへりめ
 ぞんやまき
 ままこりのむ
 やまのらんか
 なるとまらけ
 うらげを



まちがせそ
 うちをいんと
 こもりありひ
 せんのそいあ
 つちがらま
 ちのびいり
 けるこの村一人の
 ひめんこのところま
 ありりりあ
 ひんとくらん
 正木をうけらるが
 正木のトまあこ
 さしいるを足て
 おとろきゆゆ入
 ありく見れくと
 足まがふいひ
 まらごま
 けぞろふい
 まらあごま
 ありげま
 よう
 まき



せうきいぐやくくどく
ふんがごまらんらん
そつそくともうこの
山あつはまをそめるよ
ふるねがむうせう
ちうがきざんちを
まのりくともうて
さねふひんそ
あんのさせふ
ふんがうねを
さしてのぶりらん
まごふさるも
うまぬ山あく
あていふごと本の
ねをつひかづん
わんもまをま
夫人がありふ
りうりねがふ
ふんこれぞ
たゆもまん
けつやうもま
さびのこいあて
ようめあうらん
うらちのいざど



ちがむどより
ゆめをうけかき
これをつらひて
こゝろあり
うらまをよ
そのうちを
きろて
あつ
ゆねが
あまぎ
るりよ
りりか
ふんま
へんを
そらふ
らやめ
せん
あのおも
きとち
ちんをさん
きろて
あらのあ
とあひ
あつをさ
てざん
る



さつこの
 こころ
 中てやと
 ままとも
 かりふく
 せらうく
 きよふのよ
 りざりあひ
 雨さうふ
 られよりふ
 むんごま
 らふくを
 のちふせ
 あてま
 つのみ
 本か
 まで
 るさ
 まー
 かん



十返屋一太郎

きん かん かん かん
 貴 類 方
 けい かん かん かん
 貴 類 方
 のう かん かん かん

月 中 五

